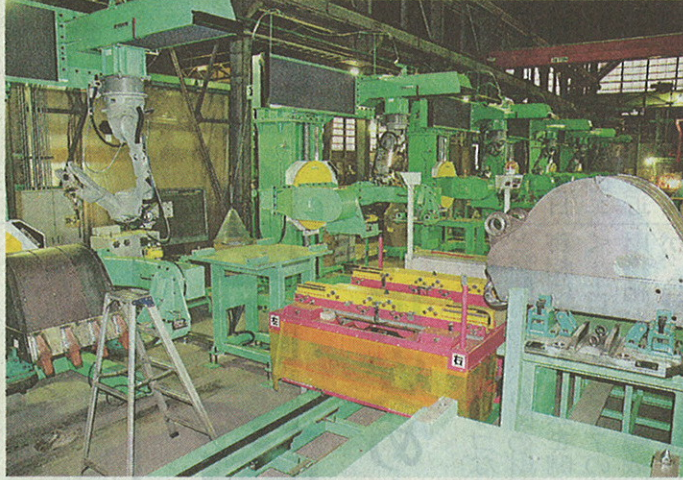


平成19年2月9日

(第3種郵便物認可)

本格稼働に向けて調整中の溶接ロボットのシステム



丸栄製作所

# 溶接工程を全自動化

## 中型バケット 生産能力20%増へ

建設機械先端機器メーカーの丸栄製作所（射水市鷺塚・小杉、今牧繁社長）は三月をめぐりに、最新鋭の溶接ロボットなどをシステム化して稼働させる。八台のロボットや搬送設備などを連動させる独自のシステムを構築し、主力の中型バケットの溶接工程を全自動化する。小ロット多品種対応を強化するとともに、生産能力の20%アップを目指す。

### 来月 小量多品種に対応

新システムは、溶接ロボットのラインで仮組みしたバケットと部品取り付け用のハンドリングロボットなど計八台と、製品搬送用のベルトコンベヤーやパレットなどで構成。別

ロボット化に取り組んできた同社が蓄積したノウハウを柱に、ロボットや搬送設備などのメーカー各社の協力を得て、現在、本社工場でシステムの最終的な調整を行っている。稼働すれば、これまで熟練工の技術を要した作業も含めて全自動化が実現する。今後高水準の受注が見込めるため、新システムを稼働させて、より効

現し、四―五人の省人化率の生産体制を整えにもつながらる。投資額は約二億円。建機需要はここ数年、世界的に拡大しており、同社は十九年一―四期連続の二けた増収を確保。